

対話絆塾・講師紹介

<https://taiwa.ken-shin.net>

現在（令和7年9月11日）、講師は1名のみです

受講者の中から、講師を務められる人材が育つことを期待しております。

（推薦図書 https://taiwa.ken-shin.net/suisen_tosyo.html）

講師認定No.1 北川 輝樹（きたがわ てるき）

コミュニケーション関連の学習履歴

- ・ 社会に出てから、心理学に興味を持ち始め、興味のおもむくまま書籍やインターネットを通して、脳科学や進化人類学、東洋哲学まで幅広く学び、対話法修得の素地になる。
- ・ 2011 年から6年間、上越〈対話法〉研究会に参加し、対話法を修得。対話の仕組みを分析し、応用範囲を模索。
- ・ 2010 年、上越市まちづくり市民大学を受講後、企画運営にも参加。KJ法を使った意見集約法を修得。対話法とKJ法を合わせて取り入れたグループ学習・グループ研究の方法を推進する。
- ・ 2020 年から日本対話法研究会々員



対話法を学び始めた契機

- ・ 明治大学工学部（現在は理工学部）建築学科を卒業後、建設会社と住宅会社で、営業職も経験。お客様の本音を察知して受注に辿り着く難しさを実感。退職後、本格的に対話法を学ぶ。

● 対話絆塾を始めるまでの物語（自己紹介）

対話絆塾では、良質な対話ができる能力を養成しています。世の中には、この能力を特別に意識しなくても、自然に修得できる人もいますが、持って生まれた才能や生育環境の良さ^{など}等の条件が必要です。しかし、それは一部の恵まれた人達だけで、多くの人には難しい条件です。私も悪条件^{もと}の下で育ち、対話能力が劣っていました。

^{しょうがい}障 碍を持っていたのです。これに気付いたのは1981年でした。片思いしていた女性に告白して、幸運にも付き合い始めことができたものの、破局に至りました。原因は、私の言葉の中に、相手に対する抑え切れない怒りの感情が混じってしまう事です。相手の女性の発言は、どう考えても、非難^{いか}するようなものではないのに、^{えたい}得体の知れない怒りがこみ上げてきてしまうことに気付きました。自分の感情をうまくコントロールできる自信がなく、好きだった女性とは、距離を置くようになり、徐々に別れました。

この怒りの正体が解るまで、3年近くかかったように思います。社会に出てまだ慣れない不安の中で、何となく心理学に関心を持ち始めた頃、出会ったのが「原初からの叫び」という本でした。この本で、怒りの正体は、心の^{しょうがい}障害「トラウマ」だと解りました。遠く薄れていた記憶の中から、3歳になったばかりの春の事件が浮かんできました。対人不信感や疎外感、心の底に怒りを秘めることになった事件です。

それから、ひたすら関連分野の本に頼りました。本から吸収した知識で、自分の中の固定観念を柔らかくほぐしたり、^{すいしょう}推奨されている訓練方法などを試したりしました。身近に相談に乗ってもらえる人もなく、精神科医のような専門医に^か掛かる勇気もなかったからです。当時は、トラウマについて詳しい専門家も少なかったですから、下手な医者に掛かるよりは、かえって良かったかも知れません。そうして何とかトラウマから解放されたかなと思えるようになった頃には、30歳を過ぎていました。遅めの結婚をしたのですが、私の両親は^{すで}既に高齢になっており、二人の介護問題が持ち上がり、3年程でこの結婚は^{はたん}破綻してしまいました。その後、帰郷して転職したのですが、運悪くリーマンショックからの不況に巻き込まれ、2009年に失業。

50歳になってからの再就職は^{きび}厳しく、しかも何年も^た経たずに定年です。それならばと、独立開業を目指しました。先ず人脈作りに取り組みました。Uターンした浦島太郎のような私には、開業しても^{こきやくかいたく}顧客開拓の足がかりがありません。目を付けたのが、市民活動でした。幾つも参加し、平均6年ほど続けました。傾聴能力を養成する団体「上越〈対話法〉研究会」にも出会いました。ここで学んだ「対話法」は、目からウロコでした。対話能力の^{みじゆく}未熟さを痛感しました。ずっと学び続けていた心理学の知識も、対話能力の上達を助けてくれました。ここでの学びは、私の宝物になりました。ところが、この団体が、参加者の先細りで、2017年の12月で解散してしまいました。

対話能力が貧弱だった私でも、ここまで上達できたのに、地域に対話法を学ぶ場がなくなるのが残念でなりません。随分と迷いましたが、何とか再開できないものかと、^{いちねんほっき}一念発起しました。2年間準備し、2020年に「対話絆塾」を始めました。

空気が読めなかった私でも、傾聴能力を^{しゅうとく}修得できた実績があります。長年学んだ心理知識が、修得を助けてくれました。こうした体験を踏まえて、「練習講座」では、一人ひとりの上達段階に応じた助言をしています。「研修会」には、私の体験で役立った心理知識を存分に盛り込みました。これなら、素質がとばしい対話下手の人でも、上達できます。また、この学びや練習は、カウンセリングやコーチング、コンサルティング^{など}等、対人能力を求められる仕事にも役立つはず。実際に、コーチングを独立開業したばかりの^{かた}方も、練習講座に参加され、とても役に立ったようです。

(物語の詳細が気になる方は、ご覧ください⇒ https://taiwa.ken-shin.net/kousi-1_story.pdf)